

総社芸術祭 2013

参加者・参加団体を募集

◆テーマ◆ ～赤と黒～

今吉備野を渡る 真紅の薫り 漆黒の響き

開催期間 平成25年

5月19日(日)～26日(日)

国民文化祭で育った小さな文化の芽をあなたの力で育てていきませんか？
次の4部門で募集します。参加を希望する人や団体は、事務局に備え付けの参加申込書に必要事項を記入し、事務局まで持参かファクシミリ、郵送で申し込みをしてください。

◆中心事業

- ①舞台部門 (演劇や音楽など)
- ②造形部門 (絵画や工芸など)

◆協賛事業

- ③パフォーマンス部門 (日ごろの成果を披露)
- ④おもてなし部門 (会場を花で飾ったり、飲食でおもてなししたりするなど)

申込期限 6月30日(土)

詳しい内容は下記までお問い合わせください。

総社芸術祭は平成25年以降、隔年で開催し、舞台部門と造形部門を公募で募集することで、高いレベルのイベントを開催し、総社市の芸術文化レベルの向上を図り、全国発信を目指すものです。

問い合わせ 総社芸術祭事務局 (総社市総合文化センター内)

☎92-3491 ☎92-3492 E-mail: bunka@mx2.kct.ne.jp、〒719-1131 中央三丁目1-102

吉備路郷土館の活用

県から譲渡される旧県立吉備路郷土館

美術工芸品の収蔵庫や展示施設で活用

今年度は、改修に必要な建物の設計を実施。平成26年4月の開館を目指す



平成22年3月末に閉館した旧県立吉備路郷土館。備中国分寺の東約400mに位置する

岡山県から建物を無償譲渡(土地は無償貸与)された旧県立吉備路郷土館(上林)を、美術工芸品の収蔵庫や展示施設として活用することが決まりました。

今年度は建物の設計を行い、平成25年度に改修工事を行う予定で、平成26年4月の開館を目指します。

吉備路の森文化館(仮称)として、1階は市が所有する美術工芸品の収蔵庫として活用。2階は市民が作品発表できるギャラリー、総社市ゆかりの作家の作品展示室、出土遺物やパネル展示などによる吉備路のガイドンス室にする計画です。

収蔵庫の整備で、分散している市所有の美術工芸品を良い保存状態で集中管理することができ、新たな作

品の収集にも活用できます。また、ギャラリーの整備で、市民ギャラリーと市図書館の3階展示室に加え、作品発表の場が増えることになりました。

旧県立吉備路郷土館は平成20年6月、岡山県の財政危機宣言を受け、総社市で活用すべく協議を重ねてきました。当初は改修費2億8000万円をかけ、美術館としての活用を目指していましたが、県と市の財政負担割合をめぐる問題で、市の負担が重くなることから市議会が反対。最終的には昨年11月、収蔵施設として、県の支援の範囲内(7100万円)で改修することになりました。



収蔵庫や展示施設として活用するため、1月27日に無償譲渡の申請書を提出した